北海道豪雪過疎地域における
広域的除排雪ボランティアシステム構築に関する実践的研究(4)
－ 除雪ボランティア経験が援助者自身の地域への考え方に及ぼす影響－
Practical Study on the Volunteer for Snow removal

中前千佳，伊地知恭右（一般社団法人北海道開発技術センター），小西信義（北海道大学大学院文学研究科），原文宏（一般社団法人北海道開発技術センター）
Chika Nakamae, Kyosuke Ijichi, Nobuyoshi Konishi, Humihiro Hara

１．はじめに

近年，豪雪過疎地域において，急速に進行する高齢化や過疎化による除雪の担い手不足が，深刻な問題となっている．この問題に対し，著者たちが所属する「ボランティア活動による広域交流イノベーション推進研究会」（事務局；（一社）北海道開発技術センター）は，雪処理の担い手を地域外から調達する広域的な除雪ボランティア（通称；雪はねボランティアツアー）の実践的研究を展開してきた（中前ら，2013）．

広域的な除雪ボランティア活動においては，ボランティア（以下：援助者）と受入側（被援助者）の相互に多様な影響を及ぼし合い，互いの意識や行動にさまざまな変化が生じると考えられる．例えば，地域の高齢者は，除雪をしてもらうことで日常生活の不便さが解消され生活の質が向上したり，ボランティアを地域で受け入れることで，受け入れる環境・知恵（受援力）が向上すると言われている（諸橋，2012）．一方，援助者は除雪をすることで，地域の人達に喜んでもらい，ボランティアをすることで，成長感，有能感，充足感等を得ている（小西ら，2013）．また，援助者が得るものは，それだけでなく，高齢過疎地域の現状を知り，その地域に住んでいる人々の暮らしを見ることで，その人自身の「日常生活のあり方（行動）・考え方」についても影響を及ぼすものと考えられる．

そこで，本研究では，援助者に着目し，除雪ボランティアに参加した援助者における「自身の地域との関係性・地域への考え方」等の変化について調査することとした．

２．調査方法

（１）調査対象

本研究における調査対象者は，2014 年 1 月～3 月における「雪はねボランティアツアー」のツアー参加者（323 名）のうち現地集合を除いた札幌市発着のバス利用者 211 名である．このうち，事後調査に回答して頂いた方は 171 名（回収率 81%）であった．

（２）調査場所・時期

「雪はねボランティアツアー」は，当別町みどり野地区（1 月 25 日，2 月 1 日），岩見沢市美流渡地区（1 月 26 日，2 月 2 日，2 月 22～23 日），上富良野町扇町地区（2 月 15 日），三笠市唐松・美和・幾春別地区（2 月 8 日），倶知安町琴和・六郷地区（2 月 9 日，3 月 2 日）にて実施した．

（３）調査方法

調査対象者に対し，質問紙調査を実施した．対象地域からの復路のバス移動中に，ボランティア参加者に対して，調査者より調査の趣旨を説明した後，調査票を配布し

Copyright © 2014　公益社団法人日本雪氷学会北海道支部

た．質問紙に回答を記入直後，ただちに回収を行った．なお，分析は統計処理されるため，個人の特定はされないことについて，口頭で説明し調査協力を依頼した．

（４）調査内容

基本属性に加え，「除雪ボランティア活動を通して、あなたの地域に対する考え方に変化がありましたか」という設問について下記の 6 つの項目を設け，それぞれ，“そう思わない”～“そう思う”の 5 件法で回答させた．

①今後，家族や近所の人の除雪を手伝う機会が増えると思う
②自分の住んでいる地域への関心が高まった
③地域内のコミュニケーションを大切にしたいと思うようになった
④地域の行事などに参加しようと思うようになった
⑤地域内の協力が重要だと思うようになった
⑥自分の地域に貢献しようと思うようになった

なお，本稿においては，上記 6 つの項目をそれぞれ「①除雪機会の増加」「②地域への関心の高まり」「③地域内コミュニケーションの重要視」「④地域行事への参加意欲向上」「⑤地域内の協力行動の重要視」「⑥地域への貢献意欲の向上」と記述することとする．

３．調査結果

（１）回答者の基本属性

回答者の性別は男性が 7 割，女性が 3 割，年代は 10 代から 60 代以上の世代が 1 ～2 割ずつを占めていた（図 1，2）．職業については，「会社員・公務員・団体職員など」が 6 割強を占め，「学生」が 2 割弱，「その他」が 2 割となっていた（図 3）．居住地については，「札幌市在住」が約 9 割，「道内（札幌市以外）」が 1 割弱，「道外」が 2%であった（図 4）．自宅の除雪の有無については「除雪をしている」人と「していない」人が半々となっており，ボランティア経験については，「経験あり」が 7 割弱，「経験なし」が 3 割強であった（図 5，6）．

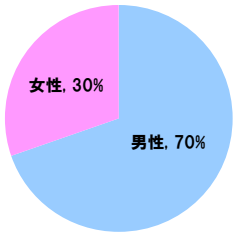

図 1　性別

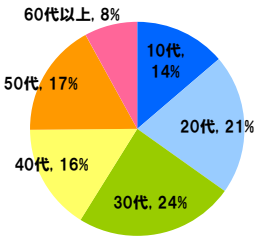

図 2　年齢

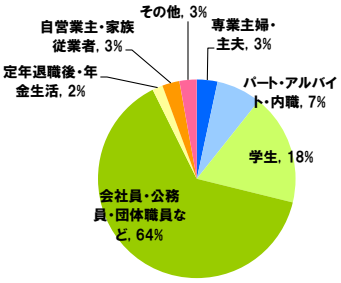

図 3　職業

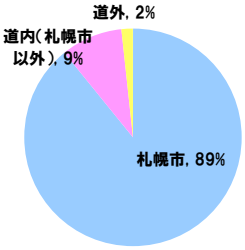

図 4　居住地

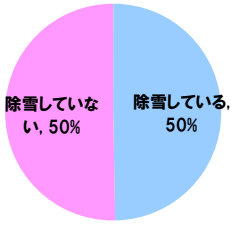

図 5　自宅の除雪の有無

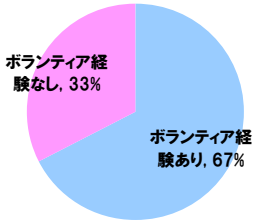

図 6　ボランティア経験の有無

Copyright © 2014　公益社団法人日本雪氷学会北海道支部

（２）除雪ボランティアを通して変化した地域への意識・考え方

「除雪ボランティアを通して変化した地域への意識・考え方」に関する質問紙調査の結果，全項目において中位値の3.0より有意に高くなっていた．これは，除雪ボランティア後に平均的に「変わった／変化を感じた」ことを意味している．特に「⑤地域内の協力行動の重要視」の平均値は4.2と高い値を示していた．これらのことから，他地域での除雪ボランティアを通して，援助者自身の居住地域への関心や貢献意欲が高まっており，特に地域内の協力行動を重要視するようになったことが分かった．

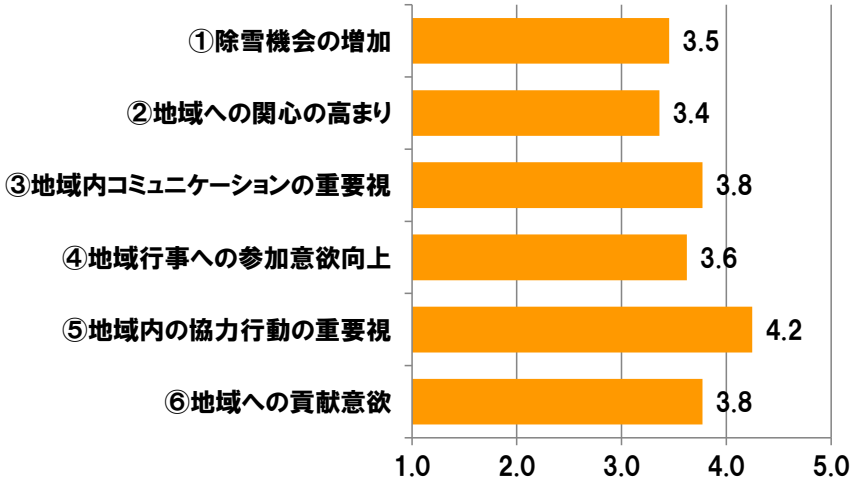

図7 除雪ボランティアを通して変化した地域への意識・考え方

（３）除雪ボランティアを通して変化した地域への意識・考え方（属性別）

「除雪ボランティアを通して変化した地域への意識・考え方」に関する質問紙調査の結果を属性別に比較した結果，性別においては，全項目について「女性」よりも「男性」の方が，平均値が高い傾向が見られたが，統計的な有意差は見られなかった．また，年代別においては，「①除雪機会の増加」「③地域内コミュニケーションの重要視」という項目において「10 代」の平均値が他の年代より有意に高く，「地域内の協力行動の重要視」という項目で「10 代」と「20 代」が他の年代より平均値が有意に高くなっていた．

このことから，10 代・20 代の若い世代が，他の世代よりも，他地域での除雪ボランティアを通して，援助者自身の居住地域で除雪を手伝う意欲が高まり，地域内におけるコミュニケーションを大切に思うようになり，地域内での協力行動を重要視するようになることが分かった．

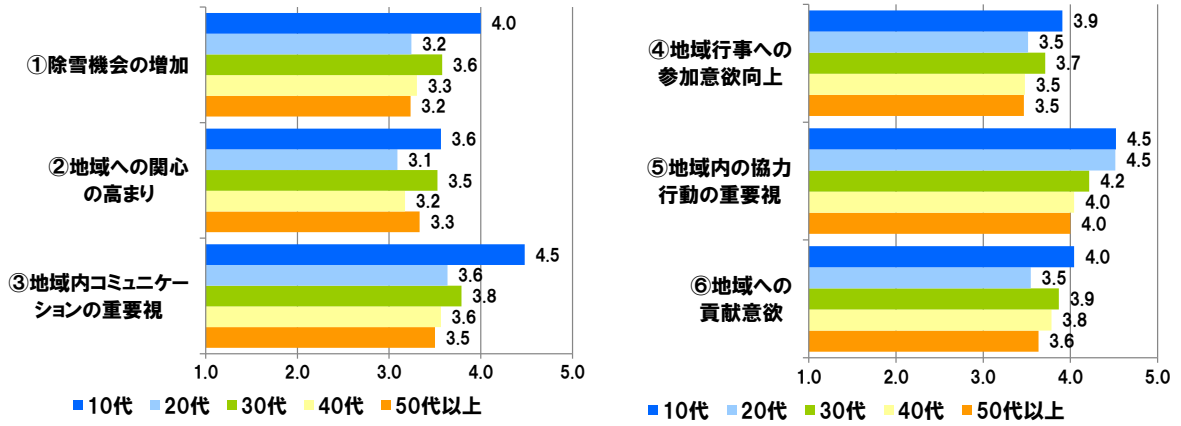

図 8　除雪ボランティアを通して変化した地域への意識・考え方（年代別）

Copyright © 2014　公益社団法人日本雪氷学会北海道支部

表1 除雪ボランティアを通して変化した地域への意識・考え方（年代別）

設問	平均値（標準偏差）					*p* 値
	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代以上	
①除雪機会の増加	4.00 (1.04)	3.24 (1.35)	3.58 (1.00)	3.30 (0.93)	3.23 (1.04)	0.063 †
②地域への関心の高まり	3.57 (1.16)	3.09 (1.38)	3.53 (1.11)	3.17 (0.89)	3.33 (1.03)	0.411
③地域内コミュニケーションの重要視	4.48 (0.73)	3.64 (1.19)	3.79 (0.91)	3.57 (0.79)	3.50 (1.07)	0.004**
④地域行事への参加意欲向上	3.91 (0.81)	3.52 (1.12)	3.71 (1.06)	3.48 (0.73)	3.47 (1.11)	0.464
⑤地域内の協力行動の重要視	4.52 (0.67)	4.52 (0.62)	4.22 (0.98)	4.04 (0.64)	4.00 (0.79)	0.023*
⑥地域への貢献意欲の向上	4.04 (0.77)	3.55 (1.06)	3.87 (0.93)	3.78 (0.60)	3.63 (1.03)	0.285

** $p<.01$，* $p<.05$，† $p<.1$

４．結論と考察

結論として，除雪ボランティアツアーの参加者は，他地域での除雪ボランティアを通して，援助者自身の居住地域への関心や貢献意欲が高まり，特に協力行動を重要と思うようになる可能性があることが分かった．特に，中高年よりも若い世代の方が除雪ボランティア活動をきっかけとして，居住地域に対する意識の変化が大きくなることが分かった．以上の結果を踏まえ，他地域での除雪ボランティアをすることで，援助者自身の居住地域への関心や貢献意欲が高まる理由について考察することとしたい．ここで，ツアー参加者の自由回答を見てみると「初めて参加したが，もっと他の地域の人たちの役に立てるボランティアに参加してみたいと思うきっかけになった」「(豪雪地域の課題が）よその出来事ではなく，自分やまわりにもふりかかることだと考えるきっかけになった」という回答が得られている．

このことから，ツアー参加者が豪雪過疎地域といった他地域の課題に直接触れることで，自分自身の地域を振り返るきっかけとなり，さらに，除雪ボランティアといった協力行動が地域の助けとなることに気づき，地域内の協力行動を重要だと思うようになることが考えられる．また，中高年よりも若い世代の方が除雪ボランティア活動により，地域に対する意識の変化が大きいのは，日頃，地域に関わりが薄く，地域のことを考えたことのない人の方がボランティア活動をきっかけに意識が変わる可能性が高いことが考えられる．

以上のことから，除雪ボランティア活動への参加は，他地域の人達を助けるだけでなく，地域との関わりの薄い人達が自身の地域を振り返るきっかけとなり，自身の居住地域の地域活動に参加するきっかけを生み出す可能性があることが示唆された．

【参考文献】

1)　中前千佳ら，2013：北海道豪雪過疎地域における広域的除排雪ボランティアシステム構築に関する実践的研究（1）－札幌発「雪はねボランティアツアー」の実践と課題－，*北海道の雪氷*，第**32**号，42-45.

2)　諸橋和行，2012：新潟県中越発! 越後雪かき道場：受援力強化の仕掛け（特集 豪雪地帯対策のこれから），*人と国土21*，**38(1)**，20-23，2012-05.

3)　小西信義ら，2013：北海道豪雪過疎地域における広域的除排雪ボランティアシステム構築に関する実践的研究(2)－ボランティア活動におけるエンパワーメント・援助出費・継続意図－，*北海道の雪氷*，第**32**号，46-49.

Copyright © 2014　公益社団法人日本雪氷学会北海道支部